

## 第1回 奥州市地域医療検討会議 会議録

(令和8年6月24日作成)

日 時 令和8年6月2日(火) 午後6時30分開会 午後8時17分閉会

場 所 奥州市役所 7階 委員会室

出席者 奥州市長、医療関係者7名、オブザーバー(県関係者)3名、随行者3名、  
傍聴者6名(報道機関。市長挨拶で退室)、関係部局2名、事務局3名

---

<次第>

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 その他
- 5 閉会

---

### 1 市長あいさつ要旨

この地域全体の医療の方向性、どのようにしてこの地域の医療を守っていくか、この大きなテーマに従って意見をいただき、各医療機関の役割や必要性を踏まえ、持続可能性のある枠組みを作っていきたい。

### 2 意見交換

冒頭で、検討会議のテーマ、持ち方、進め方等について事務局から説明した。その後、今後の会議運営の参考とするため、将来の地域医療体制に関し、各出席者が重視している事項や懸念する事項等について、ご意見等を伺った。

#### 【主な意見等】

- この地域の医療を守るためには、急性期・救急に対応できる基幹病院となる県立胆沢病院を死守しなければならない。そのためには、地域の医療関係者全体で連携・役割分担していかなければならず、その中で、市立、県立、民間がそれぞれ果たすべき役割を担うことが望ましい。
- 病院を建てること、病院を経営していくこと、そして地方に医師を呼ぶことが非常に困難な現状を、市は市民に説明すべき。市民も市役所ももっと理解すべき。
- 入院治療や高度な治療を行うには、常勤医師が3名いないと厳しい。地域の医療提供体制は、単独ではなく、圏域を超えた広域的な連携を図らなければ確保できなくなっている。

- 新医療センター建設計画に関しては、地域の医療関係者の意見を聴くところからスタートすべきだった。また、「新医療センター」の名称は、地域の核となるものにこそ相応しく、市民に過度な期待や誤解を与えかねないものだったのではないかと思う。
- 奥州市全体をカバーする上で、県立江刺病院は無くしてはならない施設だ。
- 基幹病院がその機能・役割を十分に果たせるよう、他の医療機関は連携して支え、守っていかなければ、この地域の医療は守れない。まずは、そのコンセンサス合意形成を得ることが短期・中期な到達点であり、その上で、外来や慢性期、回復期、訪問診療、産後ケア等の必要な機能・役割・規模感をデータに基づき検討できれば、結果は見えてくるのではないか。
- 水沢病院をはじめとする市立医療機関の存続問題は、何十年と解決できずにきた。いろいろな医療機関はない。しかし、医師も看護師も患者も減少していく中、赤字に公費を投じてでもやらなければならないものや、民間等により役割が充足しているものなど、市の内部で医療の需要や経営状況等をしっかり分析・検証し、市民にデータを示した上で、維持・継続すべきか縮小・廃止すべきか、シビアに判断していただきたい。
- 胆江圏域は、病床数こそ適正化が図られているが、ここ10年で開業医の先生方が一気に引退し、厳しい状況になると推測される。そのことを見越すと、公的医療機関が外来機能をサポートしなければならないことも想定しながら検討すべきではないか。
- 病院の開設者としては、そこで働いている人の雇用の問題もあり、病床数削減等とのバランスをどのようにとっていくかが重要だと考える。
- 2040年を見据えた新たな地域医療構想の検討の中で、必要病床数や地域に必要な医療機関機能をこれから検討することとなる。必要なデータ提供等をしていく中で、今後地域の医療ニーズに合った機能・規模を関係者全体で検討していただきたい。